

ると南下するとは思えない。以上の事実から 300mb 面での寒気の機構が大きな目安となる。すなわち

- (1) 300mb 面にも寒気として現われている対流圏全体にわたるような寒気は南下しない。
- (2) 300mb 面で暖気となっているような相対的に背の低い寒気は南下の傾向がある。
- (3) (2) の条件下で 700mb での短波のトラフの後面のバクリニステイが大きい程その状態を維持して移動し本邦付近でトラフは深まって不安定度が増し下層に閉じた低気圧を発生させる。

6. 結 語

300mb 面以下での寒気とそれより高い所まで伸びている対流圏全体にわたる背の高い寒気とがある場合、南下するか否かは 300mb の場ではかなり明瞭な目安が得られた一例である。しかし寒気の移動については、大循環に関連した現象として考えねばならないので当然季節的な概念も十分考慮せねばならない。春現われる寒気と冬の寒気との相違も吟味の対象になる。これらのことは物理的に証明が難かしいが、今後このような例をとりあげてさらに吟味したい。

日中の気象交流について

日本気象学会国際交流委員会

国際交流委員会では、昭和36年大会の決議にもとづき、昭和37年度秋又は昭和38年春の大会に、中国気象学会の学者を招待することをきめ、今迄その準備をすすめてきました。しかし最近のような手紙（仮訳）が中国気象学会より送られてきました。そこで常任理事会では、一応招待の時期を延期することになりましたので、当国際交流委員会では下記のような返事を中国気象学会宛に出しました。

中国気象学会からの手紙。

日本気象学会国際学術交流委員会
貴会の書翰を受領し、1962年秋あるいは1963年春2名の気象人を派して貴国を訪問するようのご招請光栄に存じます。

我が学会常務理事会議で研究の結果、近年業務が比較的多忙のため、人を派して国外訪問することは困難であります。

貴会の一二度のご熱心なる招請に対しては、我々は謹

んで心からの感謝をあらわし、また気象界の各位にねんごろなご機嫌伺いをし、各位のご健康をお祝いします。

中国気象学会

1962年7月12日

国際交流委員会からの返書。

1962年9月1日

中国気象学会 御中

日本気象学会国際交流委員会

1962年7月12日付当国際交流委員会宛の書簡及び1962年7月12日付日中友好協会宛の書簡の写しを受取りました。我々の招待に対して示されたご好意あるご配慮を大変嬉しく思っています。

中国気象学会と日本気象学会との緊密な交流は是非必要な事と考えておりますので、他日機会を改めて貴学会の方を日本へご招待致したいと思っています。

貴気象学会の発展を希い。ここにご挨拶を送ります。

局地的大雪のシンポジウム

1962年11月28日 13時30分～17時
北大理学部気象学教室（出席者60名）

座長 山崎正博（札幌管区気象台）

話題および話題提供者

1. 石狩平野の大雪の特：伝法宏（札幌管区気象台）
別観測

国鉄に依頼した特別観測資料を解析して暑寒別岳の周りの肩効果が重要であるとした。

2. 大雪時の地上解析：荒川正一（札幌管区気象台）
石狩平野に大雪をもたらした一例について中規模解

析を行ない、夜間夜間冷却でできた内陸高気圧を重視した。

3. 大雪時の高層解析：岡林俊雄（札幌管区気象台）
石狩平野の大雪時の断熱図解析を行ない、下層不安定、上層安定などのいくつかの特徴を述べた。

4. 降雪の Band 構造につ：樋口敬二（北大理学部）
いて

豪雪地帯が海岸から内陸に向つて筋状に伸びることに注目し、雲が海上から Band 構造を持つていることを主張した。